



広報

なかどまり

合併5周年記念特別号

2010 August

5th Anniversary Extra Edition



町が誕生してから5年。

性格の違う町・村同士が、
心ひとつにまちづくりに励んだ5年。

5年の歳月は、子どもたちをここ
まで大きくしました。

次の5年も、この笑顔を絶やさず。



広報写真で振り返る合併5年

町が誕生してから5年の軌跡を、写真で振り返ります。
広報なかどまりのコーナー「まちの話題」からの写真を中心に、
町がたどった5年間をご覧ください。



ヤリイカ味覚まつり【4/29】



RABビーチャッカー青森県大会inこどもり【7/18-19】



大沢内ため池公園開園【7/14】



なかどまりまつり(小泊)【8/14】

2005



中畑清野球教室【10/1】



本庁開庁式【3/28】



子ども会ジュニアリーダー研修会【8/6-7】



小泊地域豪雨災害【9/18】



下前小学校閉校式【11/27】

2006



こどもり新鮮朝市【4/15】



遠隔交流授業【7/13】



地域イントラネット開通式【3/3】



新潟精弥杯争奪剣道大会【10/22】



津軽海峡春もみじまつり【6/4】



生涯学習推進大会【2/12】

＜2006年＞

- 2月12日 生涯学習推進大会開催
- 3月3日 地域イントラネット開通式
- 3月10日 地域連絡バス利用者1万人達成
- 3月28日 町民憲章制定
- 3月31日 下前小学校閉校
- 7月22日 第1回ホテルまつりinなかどまり(23日)
- 9月8日 中泊産去勢子牛が最高値(秋元登志幸さん)
- 11月19日 町合併1周年記念「たのしいまちづくりフォーラム」
- 11月26日 津軽民謡・沖縄民謡チャリティーライブ
- 12月13日 もったいない条例制定

主なできごと



相互訪問ツアー【9/2】



ホテルまつりinなかどまり【7/23-24】



中泊町誕生記念式典【7/5】

- 3月28日 中泊町誕生・開庁式
- 4月4日 富野保育所民営化・開所式
- 4月25日 小野俊逸町長初登庁
- 5月18日 砂防愛ランドでホテル幼虫放流
- 7月5日 町誕生後初の100歳顕彰(松島きよさん)
- 7月11日 中泊町誕生記念式典
- 7月14日 地域連絡バス運行開始
- 7月18日 大沢内ため池公園開園
- 9月18日 小泊地域豪雨災害発生
- 10月1日 新町誕生記念「中畑清野球教室」
- 10月31日 知事とのわいわいミーティング
- 11月6日 中里高校創立30周年記念式典・祝賀会
- 11月27日 下前小学校閉校式・思い出を語る会
- 12月12日 町の花・木・鳥決定

主なできごと



2008年

1月14日 武田地区「もったいない町民運動」合同研修会

1月21日 戸籍電算システム可動式

3月31日 金木高校小泊分校閉校

4月1日 郵便局での証明書交付事務開始

4月26日 こども春物語ツアー（27日）

5月25日 走れメロスウォーキングinこども岬

6月3日 大沢内ため池「湧つぽ」平成の名水百選に選定

7月11日 徐福の里物産品直売所オープン

7月28日 給食センター建設工事安全祈願祭

8月31日 24時間テレビ「愛は地球を救う」津軽海峡横断リレーロケ

11月4日 日本海漁火センターに小泊支所が移転・オープン

11月8日 大沢内ため池「湧つぽ」改装プロジェクト

11月9日 津軽鉄道大沢内駅舎漬物まつり

主なできごと



2007年

2月10日 なかどまりイガ米〜きてけフェア

4月2日 防災行政用無線開通式

4月23日 中泊町図書館文部科学大臣表彰

6月1日 小泊中学校で1回目の職員出前講座

7月8日 インド仮面舞踏公演

10月20日 金木高校小泊分校閉校記念式典

11月11日 集団回収育成推進事業説明会

11月18日 NHK公開録音「民謡をたずねて」

12月26日 三上新一さん「田中稔賞」受賞

主なできごと



中泊町が誕生して、今年の3月28日で5年が経ちました。この記念すべき区切りを迎え、これまで町政運営に多大なるご協力、ご尽力をいただきました議会、関係者の皆様、そして町民の皆様に対しまして、改めて心から感謝申し上げます。

本町は、津軽北部四町村合併協議会解散という苦い経験のもと、農業の町「中里」と、漁業・観光の村「小泊」が一緒に手を携え、新しい町を作ろうという大きな志の上に築かれた町です。飛び地合併であったことから、町内外からさまざまなご意見をいただきましたが、むしろそれを大きなエネルギーに変え、新たな町を築こうという町民の皆様の熱い思いが開花し、新町が誕生したものであります。

新町の運営にあたりましては、まず町づくりの柱となる長期総合計画を策定し、「大地の恵と海の幸 心ひとつに希望のまち」をスローガンとして、町民同士の融和を図ることから始めて参りました。自然・生活環境、産業構造が大きく異なる町民がお互いに同じ合うよう、地域連絡バスの運行、防災無線の戸別受信方式によるデジタル化、町民大運動会の開催など、物心両面からの一体感を醸成して参りました。

また、合併の大きな目的である行財政の効率化にも、一方ならぬ協力をお願いできました。富野・薄市保育所の民営化や、既存施設を利用した新小泊

支所、小泊消防署のオープンなどは、町の将来を見据えた上で行ってきたものです。武田・内潟両出張所の廃止など、一部ご不便をおかけしたのもありました。が、郵便局への業務委託など代替策を講ずることによって、十分ではないもののサービスの低下につながらないよう努めてきたところであります。

これらの取り組みは、合併に伴う補助金や特例債など、合併しなければ財源が捻出できなかった事業も多々ありました。まさに、町民の皆様が一体となった合併の効果であると考えております。

最近では、町内各団体による地域づくりの機運がにわかに盛り上がっており、自らの手で地域を活性化させようという動きが活発になってきています。「希望のまち」という抽象的なスローガンが、いま大きな動きとなって具現化しようとしているもので、町にとつてこれほど喜ばしいことはありません。お互いに切磋琢磨し、「希望のまち」を作り上げていくよう、今後とも努力して参りたいと思っております。

今年12月には、青森まで東北新幹線がやってきます。皆様のお力を得ながら、町の新たな隆盛を作り上げていきたいと思っておりますので、変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



中泊町長 小野 俊 逸

「希望のまち」を目指し
町が歩んだ5年を振り返って



2009-10

町章 (平成17年3月28日制定)

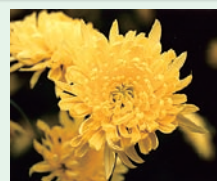
中泊町の「中」の文字を基調に、豊かな自然の中で躍動する人を象徴的に表現しています。橙は太陽、青は海と空、緑は大地で自然に恵まれた中泊町をイメージしています。



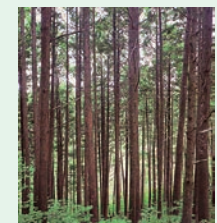
(平成17年12月16日制定)

「菊」は発展途上にある町民の誇りと願い、「ヒバ」は時代を乗り越えて成長する、「ツバメ」は未来への飛躍が期待される、という町のイメージにふさわしいものとして決定されています。

町の花・木・鳥



【町の花一菊】



【町の木一ヒバ】



【町の鳥一ツバメ】

町民憲章 (平成18年3月28日制定)

わたしたちは、豊かな津軽の大地と雄大な日本海の恵みを受けているこの郷土を愛し、美しい自然と先人の英知によって築かれた歴史と伝統に誇りを持ち、心ひとつにみんなで力を合わせ、あずましい町をつくるために、この憲章を定めます。

- 1 働くことに喜びをもち、活力にみちた町をつくりましょう。
- 1 文化とスポーツを愛し、健康で明るい町をつくりましょう。
- 1 子どもとお年よりをいたわり、安らぎのある町をつくりましょう。
- 1 自然を守り、水と緑のきれいな町をつくりましょう。
- 1 ふれあいを大切にし、心の温かい町をつくりましょう。



学校給食センター落成【09/4/29】



B&G海洋センターオープン【09/7/1】



町民テニス大会【09/8/30】



地域づくりフォーラム【10/2/18】

2009年	
1月9日	中里・薄市・富野保育所合同食育教室
1月19日	小泊消防署高規格救急車供用開始
3月8日	第1回町民フリーマーケット開催
3月17日	定額給付金支給開始
4月1日	武田・中高線バス運行開始
4月29日	学校給食センター落成
6月6日	第1回若木川「芦野頭首工」ヤマメ体験学習放流会
8月11日	「金多豆蔵人形劇場」こけらおとし
8月30日	第1回中泊町民テニス大会
10月8日	小説「津軽」の像建立20周年記念式典
10月23日	陸上自衛隊ふれあい演奏会
12月25日	第1回中泊町社会福祉大会
2月18日	天皇賞・田中稔賞受賞記念合同祝賀会
3月27日	(天皇賞・三上新一氏 田中稔賞・荒関敬悦氏)
2月18日	地域づくり町民フォーラム
3月27日	町モニターツアー

主なできごと

「中泊町ふるさとイメージアップ大使」を任命しました

町が誕生して早5年が過ぎ去りました。町ではこの5年間、まちづくりの合い言葉である「大地の恵と海の幸 心ひとつに希望のまち」を体現すべく、さまざまなことを行ってきました。

町では、合併5周年の節目を迎えるにあたり、このたび町のイメージアップを図る大使の任命を企画しました。任命する方々は、町内外で幅広く活躍されている方で、その公演機会に、町のイメージアップ活動を行っていただきます。今年は、折しも青森まで新幹線がやってくる年です。町の誕生5周年を記念し、新たな飛躍の年にしたいという願いから、次のお三方を大使に任命します。

三上 寛

(昭和25年3月20日生 旧小泊村出身)

高校卒業後、警察学校、板前の見習い、新聞配達を経て昭和45年、東京渋谷の「ライブハウスステーション70」で歌い始めます。同46年、中村八大作曲の『馬鹿ぶし』でデビュー。第3回全日本フォーク・ジャンボリーに出演し、日本で最も過激な唄を歌うフォーク歌手として脚光を浴びます。

以後、CDアルバム、小説、随筆、作詞、作曲、詩集などを多数発表。シンガーソングライター(作詩・作曲と歌手を兼ねた人)のみならず、多方面での活躍が評価されている、芸能界有数のタレントです。

また、誰よりも小泊を愛する人で、故郷でのコンサート、小泊のテレビCM出演、東京での「ふるさと交流会」での演奏等に積極的に協力しており、町のイメージアップを図る大使としてふさわしい方です。



横山 ひでき

(昭和42年6月19日生 旧中里町出身)

青森県を主な拠点に活動するローカルタレントです。愛称は「ひでちゃん」。トラック運転手などさまざまな職業に就いた後、黒石八郎に弟子入りします。以前は師匠との出演が多かったですが、最近は単独での出演が中心となっています。青森県の放送番組のテレビ・ラジオのレポーターや出演のほか、各種イベントの司会として非常に活躍されている方で、弟子入りした黒石八郎氏の下で三味線と民謡の修行中でもあります。

また、旧中里町のときから、まつりや町民祭での司会、記憶に新しいところではもったいないフォーラムの司会など、特に司会業で町のイベント盛り上げに貢献。その語り口は軽妙で、誰からも愛される親しみやすさがあります。

このように、町への貢献やその明るい語り口などから見ても、町をPRする人材としてうってつけの方です。



木村 巖

(昭和39年5月3日生 旧中里町出身)

農業をする傍ら、「金多豆蔵人形一座」を主宰し、精力的に公演活動を行っています。現在の保持者である氏は、2代目木村幸八氏の弟重成氏の息子で、その技量が2代目木村幸八氏の目にとまり、平成6年(1994)に3代目の襲名を許されています。

昨年開場した津軽中里駅駅舎内の「金多豆蔵人形劇場」で月1回の公演を行っているほか、出張して各地で公演するなど、昨年の常設劇場開場以来、町のホットな観光資源として、町内外から非常に注目を集めています。

公演の内容は、酒呑みで失敗ばかりする「金多」と、おっちょこちょいだが情にもろい「豆蔵」が主役となって劇を繰り広げ、掛け合い漫才のほか、人形の手踊りなどさまざまな演目を持っており、津軽の風俗を取り入れた伝統芸能にふさわしい人形劇となっています。

昨年5月には、町教育委員会が無形民俗文化財として指定しました。

